

須美ちゃんは名探偵!?

浅見光彦シリーズ番外

内田康夫財団事務局・著

文庫判: 310ページ

出版社: 光文社

発売日: 2021年5月12日



〈『須美ちゃんは名探偵!?'とは〉

1993年に設立の浅見光彦倶楽部（現在は内田康夫財団が運営する「浅見光彦友の会」に引き継がれました）の会報「浅見ジャーナル」に、内田康夫公認の物語として掲載したのが『須美ちゃんは名探偵? 「花を買う男」』です。その後、「風の吹く街」と「鳥が見る夢」はホームページで連載。今回、一冊の本にまとめるにあたり、生前、内田康夫に相談していた「月も笑う夜」を完成させました。物語は十年以上前の時代背景をもとに描いていますので、違和感がある部分もあるかもしれません。また、主人公の吉田須美子をはじめ浅見家のキャラクターなど、内田康夫原作の浅見光彦シリーズとは多少異なる部分がありますが、内田康夫自身も公言して憚らなかったパラレルワールドとして、楽しんでいただけましたら幸いです。

〈あらすじ〉

●「花を買う男」

浅見家のお手伝いとして働く吉田須美子は、生花店の店主・育代から、不思議な花の買い方をする紳士がいると聞いた。花の種類も本数もばらばらなのは、何かの暗号だと気づいた須美子は……。

●「風の吹く街」

突風で偶然、須美子の足元に舞い降りたメモ用紙に「10月4日D51」の文字が。先日耳にした恐ろしい都市伝説「動くD51」と、「捜し物をするおばあさん」に繋がる不思議な運命とは。

●「鳥が見る夢」

突然しゃべり出したオカメインコのシズク。飼い主の美紀は無邪気に喜ぶが、シズクの言葉が現実になりだし、母親は少しノイローゼ気味。須美子が謎を解き明かした予知夢を見る鳥の秘密とは。

●「月も笑う夜」

亡き夫が遺した「笑う月」の謎を解明してほしいと育代から依頼を受けた須美子。周囲の人々が自分を避けていることに悩みながらも真実に辿り着いた須美子を、驚くべき結末が待ち構えていた。

〈登場人物〉

吉田須美子（よしだ すみこ） …… 浅見家のお手伝い。新潟出身。遠縁にあたる先代ばあやの推薦で、高校を卒業した春から東京・北区にある浅見家に住み込みで働く。感動屋で涙もろい。

小松原育代（こまつばら いくよ） …… 商店街の生花店・花春を一人で切り盛りしている店主。須美子とは親子ほども歳が離れているが、気のおけない友人。須美子を名探偵だと思っている。